地方創生関係交付金の継続について

平成30年7月

【担当省庁】内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部)

奈良県における取組

- 〇 平成30年度当初予算で地方創生推進交付金、平成29年度補正予算で地方創生拠点整備交付金を継続するとともに、地方創生拠点整備交付金の運用を弾力化し、平成30年度から平成31年度にわたる事業の実施を可能にしていただき、心より感謝。
 - ▶ 生産性革命に資する地方創生拠点整備交付金を活用した取組の1つである (仮称)奈良県国際芸術家村整備事業については、基金制度の活用を予定。 歴史文化資源の修復・活用等に係る拠点施設に加え、地域の生産性向上や 観光・交流拠点としての機能などを有する地方創生の先駆的な拠点として整備。
 - ▶ 地方創生推進交付金については
 - ・歴史文化資源を核とした文化・芸術振興の拠点づくりプロジェクト
 - ・文化財の国際的展開を通じた奈良の国際ブランドカ最大化プロジェクト
 - ・大和野菜の生産性拡大、販路開拓、担い手確保のためのプロジェクト などに効果的に活用。
- 地方創生拠点整備交付金と地方創生推進交付金は、「住んで良し」、「働いて 良し」、「訪れて良し」を目指す本県の地方創生を推進する強力なエンジン。
 - 本県では、平成30年度1次募集において、以下のとおり交付決定を受け、事業を推進。
 - 奈良県 推進交付金 10事業 5億9,448万円 拠点整備交付金 2事業 6億3,262万円
 - 市町村 推進交付金 35市町村 50事業 4億9,176万円
 - 平成30年度2次募集では、以下のとおり申請中。
 - 奈良県 拠点整備交付金 1事業 7億9 357万円
 - 市町村 推進交付金 6市町村 4事業 1億1,425万円 拠点整備交付金 2市村 2事業 8,152万円

国にお願いすること

- 大阪のベッドタウンとして発展してきた本県は、他県より人口減少と高齢化が急速に進んでいく。この影響を緩和し、持続的に発展していくためには、将来の地域発展に繋がる投資を積極的に行っていく必要がある。そのため、地方創生拠点整備交付金について、そのような投資が安定的に実施できるよう、来年度以降も十分な規模を確保されたい。
- 地方創生推進交付金については、左記のとおり、本県の強みである歴史文化資源の保存・活用や、奈良の魅力発信、ブランドカの向上などの施策や事業に活用しており、これらを安定的・継続的に実施する必要があることから、今年度(国費ベース1,000億円)以上の規模を確保されたい。

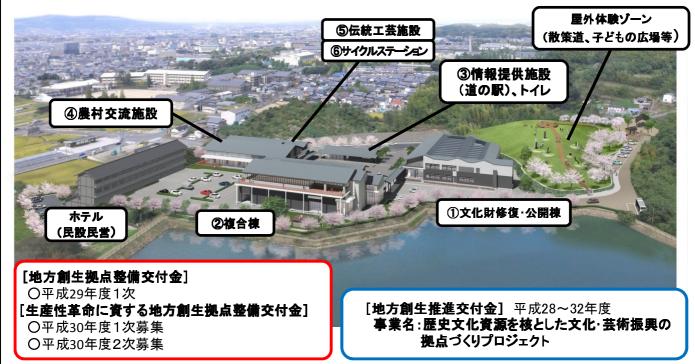
【県担当部局】総務部知事公室政策推進課

くご参考>地方創生拠点整備交付金の申請中事業

【奈良県】

〇 (仮称)奈良県国際芸術家村整備事業(申請額 7億9, 357万円)

・当該拠点の中心となる歴史文化資源の修復・活用、文化資源交流、人材育成の拠点(①・②)づくりにあたって、民間ホテルを誘致するほか、観光振興(③・⑥)、産業振興(④・⑤)、まちの賑わいづくり(③)など幅広い政策分野と連携しながら、これらの関連施設と合わせて複合的に整備。





文化財修復·展示棟 文化財修復作業の公開·解説



複合棟体験学習



農村交流施設 直売所・農家レストラン



複合棟交流ラウンジ

【天理市】

○ 産官学連携とアートの力で無人駅を地域農業観光の「生産性革命」拠点とする柳本駅再整備事業(申請額 2, 302万円)

・JR柳本駅舎や駅西側の整備により、地元農産品等の販売促進や情報発信、生産地を巡るルートの観光案内、アーティストと生産者の協働による新たな商品開発等、農と観光を掛け合わせた地域密着型の周遊観光の拠点とする。

柳本駅舎(現況)



整備イメージ(平面図)



【黒滝村】

- 生産性革命に資する6次産業拠点施設整備事業~黒滝わくもりプロジェクト~
 (申請額 5, 850万円)
 - ・廃校となった旧黒滝中学校校舎を、県の大和野菜に認定された「黒滝白きゅうり」 をはじめとした村の季節野菜の6次産業化拠点施設として整備する。
 - ・「黒滝白きゅうり」を村の特産品ブランドとして推進するだけでなく、生産量の増加及び生産コストの低減を図り、地域特産品の高付加価値化につながる研究開発・地域普及に繋げる。生産収入の向上を図り、雇用の創出を促す。

旧黒滝村中学校(現況)



1階整備イメージ(平面図)

